

私たちにとってのMINAMATAを考える

水俣フォーラム 実川悠太

1. 水俣病事件とのかかわり

- ・1972年3月、チッソ東京本社前座り込みテントを訪ねて
- ・テント組・宿舎組・事務所組の事務所へ
- ・川本輝夫の言葉「大学が今そのままなら水俣病がいくつあっても足りん」

2. 目的意識の変遷

- ・「この人たちの役に立ちたい」+“革命”寄与幻想
- ・『わが死民——実録水俣病闘争』(渡辺京二の実質編集、1972刊)を遅れて読んで
- ・浜元フミヨの言葉「人間な何のために生まれてきたか」「あの頃が花だった」
- ・緒方正人の言葉「罪深いチッソこそ救われなければならない」
- ・89年の水俣工場前座り込み解除——実力闘争の終焉

3. 「水俣・東京展」開催へ

- ・水俣病歴史考証館の展示制作——アートディレクター市川敏明との出会い
- ・『グラフィック・ドキュメント スモン』編集で学んだ和解の力と水俣の特殊性
- ・92年から毎月例会の準備会で趣意書ほか呼び掛け準備
- ・94年に実行委員会発足——最初期の支援者・青山俊介の参加
- ・土本典昭による水俣病患者遺影の複写巡回
- ・チッソ・国・熊本県・水俣市にも参加を呼び掛ける
- ・16日間開催、30000人来場、総支出1億5000万円
- ・原田正純・筑紫哲也ら「東京だけで終わっていいのか」

4. 水俣フォーラム

- ・水俣・東京展実行委員会の趣意書・展示物・負債・名簿を引きつぐ
- ・現在：会員約1000人、会友約16000人
- ・患者家族・チッソ関係者・水俣市民の参加・入会
- ・学生ボランティアの進路に影響

5. 水俣病事件の特殊性——なぜ終わらないのか、何が魅力的なのか

- ・日本近代におけるチッソの重要性……「新興財閥の雄」、朝鮮窒素
- ・水俣病は治らない……大気汚染ぜんそくやカドミウム腎症は回復する
- ・患者への敵視と差別の厳しさ……他に例のない「チッソの街」
- ・被害民の意識と生活……渡辺京二「生活基層民」の最後の村

6. 私たちの時代

- ・人類史上最も恵まれた近現代……飢えから解放 + 自由と平等の標榜
人類1人あたりのGDPの変化（アンガス・マディソンによる統計）

紀元1年	►	1000年	►	1600年	►	1820年	►	1913年	►	2003年
\$467		\$450		\$596		\$667		\$1526		\$6516
- ・持続しない経済成長（セルジュ・ラトゥーシュによる）
全世界のGNP成長率を年3%とすると1世紀で31倍、2世紀で963倍
- ・あらゆるもの商品化、市場化、競争化とそのための国民国家システム
- ・結果としての環境汚染、他の生物絶滅、肉体と精神の病い
- ・そもそも人間とは何だったのか

7. 「水俣病70年」

- ・人間と社会を考えるために、水俣病患者への偏見・誤解をなくすために
- ・1月24日～3月14日、東京周辺8都市で毎週「水俣病講演会」
- ・4月4日（土）東京国際フォーラムで「水俣病70年記念講演会」
- ・11月25日（水）～29日（日）渋谷ヒカリエで「水俣病70年展」